

第 28 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞

功労賞受賞者

<氏 名> 坂本 静男（さかもと しずお）

<所 属 等> 早稲田大学 名誉教授

<年 齢> 75 歳(2026 年 3 月 11 日時点)

<学 歴> 1976 年 弘前大学医学部医学科卒業

<学 位> 医学博士（聖マリアンナ医科大学）

<職 歴> 1976 年～1980 年 関東逋信病院 健康スポーツ診療科 レジデント

1980 年～1982 年 長野逋信病院 内科兼健康管理科 医師

1982 年～1983 年 関東逋信病院 神経内科兼健康管理科 医師

1983 年～1986 年 関東逋信病院 循環器内科兼健康管理科 医師

1986 年～1994 年 国際武道大学 講師 - 助教授 - 教授

1994 年～2003 年 順天堂大学医学部附属浦安病院

健康・スポーツ診療科 講師

2003 年～2018 年 順天堂大学 医学部 循環器内科 客員教授

2003 年～2021 年 早稲田大学スポーツ科学部 教授

2004 年～2019 年 東京女子医科大学第 2 病院 内科 客員教授

2021 年～2024 年 駿河台大学スポーツ科学部 特任教授

2021 年～現在 早稲田大学 名誉教授

<その他役職>

1982～2000 年 日本体育協会※スポーツ診療所 医師

1988～2020 年 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会

講師（司会含む）

1992～2001 年 日本体育協会※スポーツ科学専門委員会

「国体選手の健康管理に関する研究」 中央企画班員

2001～2021 年 国立スポーツ科学センター

スポーツメディカルセンター 医師

2002～2022 年 日本スポーツ協会スポーツドクター部会 部会員

坂本静男氏は、スポーツ医学および健康科学の分野において半世紀近くにわたり、研究・教育・実践の各領域で卓越した業績を残し、我が国のスポーツ医・科学の発展に多大な貢献を果たしてきた。

同氏は、弘前大学医学部を卒業後、関東逓信病院等での勤務を経て、国際武道大学、順天堂大学、早稲田大学の各大学で教授を務め、さらに駿河台大学特任教授に就任した。大学では、生活習慣病やメタボリックシンドロームを予防・改善するための運動処方、スポーツパフォーマンスの向上あるいは健康維持のための生活習慣について研究し、国内外の医療系・体育系学術誌に多くの科学論文を発表している。

1982年から日本体育協会（現：日本スポーツ協会）スポーツ診療所および2001年から国立スポーツ科学センタークリニックにおいて、アスリートの診療と健康管理に従事し、夏季オリンピック2回、冬季オリンピック1回をはじめとする多くの国際大会に日本代表選手団ドクターとして帯同した。

さらに、スポーツに関連した突然死の予防対策として、一般市民スポーツ愛好家やアスリートを対象にしたメディカルチェック体制の確立に大きな功績を残してきた。その代表的な成果が、同氏が永らく関わった国民体育大会（現：国民スポーツ大会）選手の健康管理の研究である。この研究は、1992年に日本体育協会（現：日本スポーツ協会）スポーツ科学専門委員会（現：スポーツ医・科学委員会）のもとに「国体選手の健康管理に関する研究班」が設置されたことから始まった。10年以上にわたって継続的に実施された調査・研究活動により、メディカルチェック・ガイドラインの策定、医・科学サポートへの拡充、スポーツドクター帯同体制の全国化、ドクターズ・ミーティングの開催といった成果をあげるなど、国体（現：国スポ）選手の安全確保と競技力向上に大きな役割を果たした。この研究成果により、2000年に「国体選手の医・科学サポートに関する研究班」の中央企画班員として秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞を受賞している。

教育の面では、日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格を早期に取得し、その後、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士の育成に永らく携わり、これにより2015年に公認スポーツ指導者表彰を受賞した。

また、国際武道大学、順天堂大学、早稲田大学、駿河台大学におけるスポーツ科学部・スポーツ診療（内科系）・スポーツ科学系大学の設立および発展に貢献し、前述の大学および放送大学において、スポーツ医・科学の教育と研究に携わり、多くの実践者と研究者を育成してきた。

そのほか、同氏の社会貢献活動も顕著である。公益財団法人健康・体力づくり事業財団においては、健康運動指導士および健康運動実践指導者の育成に尽力し、2018年に厚生労働大臣感謝状を受賞した。2024年度から健康づくりのための運動指導者養成運営委員会委員長、2025年度から日本健康運動指導士会理事に就任し、健康運動指導士の教育指導および適切な指導管理の推進に寄与している。

以上のとおり、同氏は長年にわたり医療現場とスポーツ現場を結び付けるとともに、指導者や後進の育成を通じて、我が国のスポーツ医・科学の発展に多大な功績を成している。